

HITACHI Open Middleware World 2008 Autumn **JP1 Day**

もっと知りたい！JP1活用ノウハウ
「モニタリング&オートメーション編」
テクニカルトラック【JC-2】

2008/11/17

株式会社 日立製作所 ソフトウェア事業部
JP1販売推進センタ

増田 義一

Contents

1. はじめに
2. 構築フェーズでの活用ノウハウ
3. 運用フェーズでの活用ノウハウ
4. 監視フェーズでの活用ノウハウ
5. 評価フェーズでの活用ノウハウ
6. まとめ

1

はじめに

ジョブ管理(オートメーション)は運用管理の中核をなす重要なセクションです。また、システム全体を監視する統合管理(モニタリング)は運用管理を円滑に行う潤滑油の役割を果たします。今回はこれらジョブ管理、統合管理をさらに便利に使う方法をご紹介します。

JP1/Integrated Management (JP1/IM)



JP1/Automatic Management System 2 (JP1/AJS2)



1-2 . モニタリング ～システム全体の稼働状況を見る～

分散システム上の業務(ジョブ)管理をはじめ、ネットワーク管理、ソフトウェア配布管理、IT資産管理など、JP1の各機能を連携させた企業情報システムの統合運用を、統合コンソールから集中管理。管理者の手間と時間を大幅に削減します。

Windows®、UNIX、Linux、メインフレームが混在するエンタープライズ環境の統合運用も、1つのコンソールから行えます。

統合コンソールの提供する階層管理により、PC サーバ1台の小規模システムから、数千台以上のサーバを駆使した大規模システムまでを統合管理できます。

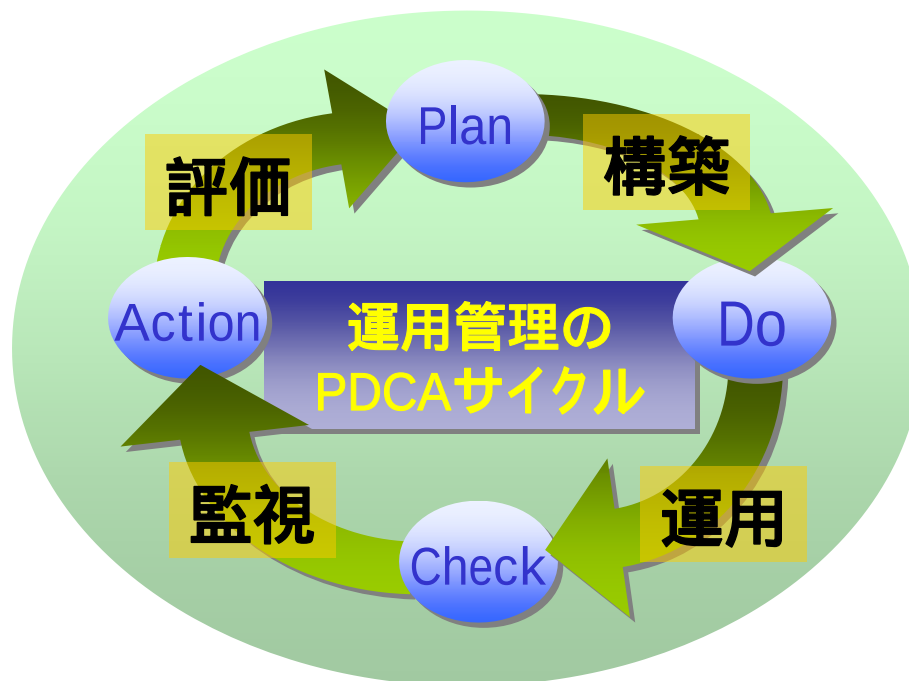


24時間365日、ミッションクリティカルな業務を確実に遂行します。

コアビジネスの強化には、バックエンドの安定運用が必須です。JP1[ジョブ管理]は、24時間365日、ミッションクリティカルな業務を確実に遂行。マルチプラットフォーム上に分散する業務を一つのジョブとして実行し、管理負担を軽減します。また、サーバ数千台の大規模システムにも柔軟に対応する拡張性と、クラスター対応による信頼性を実現。安定した業務運用を支えます。



運用管理はPDCAサイクルを繰り返しながら実行されます。
そこで、各フェーズ別に活用ノウハウをご紹介します。



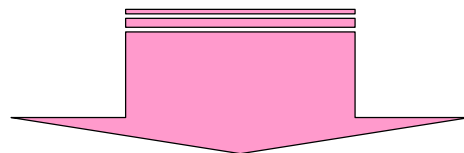
各フェーズでは、下記の活用ノウハウをご紹介します。

#	フェーズ	ご紹介する活用ノウハウ
1	構築フェーズ	サーバリプレイスでのJP1/AJS2の移行
2		パスワード管理をWindowsと一元化したい
3	運用フェーズ	ジョブネットの実行順序制御を活用しよう
4		イベントジョブの情報を後続ジョブに利用する
5		サイクルの異なるジョブを連携させるには
6	監視フェーズ	メンテナンス時はイベント監視を抑止したい
7		イベントの対処手順を簡単に参照する
8		ジョブの先行/後続の関連をすばやく確認する
9	評価フェーズ	JP1/AJS2-Viewの接続状況を管理する
10		JP1イベントを報告書のデータとして活用する

2

構築フェーズでの活用ノウハウ

老朽化や能力的な問題でサーバをリプレイスする時、OSを初めとするソフト環境を移行しなければなりません。JP1/AJS2の場合、プロダクトのインストールやシステム環境定義の設定はボリュームも大きくなく、再設定をしてもそれほどの障害要因になりません。しかし、膨大なジョブ定義や登録予定情報を再登録するのはリスクが高く現実的ではありません。簡単で確実な方法はないのでしょうか？



JP1/AJS2では

ジョブ定義も登録予定情報もバックアップ/リストアのコマンドを提供しています。

ジョブ定義 ajsprint /ajsdefine
登録予定情報 ajsrgexport /ajsrgimport ^{*1}

対象製品: JP1/AJS2 - Manager

^{*1}: JP1/AJS2 - Manager 08-50以降でサポートしています

● JP1/AJS2の移行手順概要

クラスタシステムでない環境の場合

・バックアップの概要

JP1/Baseのバックアップ

- ・定義ファイルのバックアップ
- ・JP1共通定義情報のバックアップ

JP1/AJS2のバックアップ

- ・ファイルのバックアップ
- ・ジョブ実行環境定義のバックアップ
- ・ユニット定義のバックアップ
- ・JP1/AJS2 Consoleの設定情報のバックアップ
- ・登録予定情報のバックアップ

その他の情報のバックアップ

- ・システム環境の設定のバックアップ
- ・トラブルシュート資料採取コマンドのバックアップ

● JP1/AJS2の移行手順概要

・リストアの概要

JP1のインストール・セットアップ

JP1/Baseのリストア
・定義ファイルのリストア
・JP1共通定義情報のリストア

JP1/AJS2のリストア
・ファイルのリストア
・共通メモリー情報のクリアー
・スケジューラーサービス用データベースの作成
・ジョブ実行環境定義のリストア
・ユニット定義のリストア
・JP1/AJS2 Consoleの設定情報のリストア
・登録予定情報のリストア

その他の情報のリストア
・システム環境の設定
・トラブルシュート資料採取コマンドのリストア
・連携機能の設定

● JP1/AJS2の移行手順概要

クラスタシステム環境の場合

クラスタシステムの場合は、物理ホスト(実行系/待機系)及び論理ホスト(実行系のみ)でバックアップ/リストアを実施します。

・バックアップの概要

JP1/Baseのバックアップ

- ・定義ファイルのバックアップ
- ・JP1共通定義情報のバックアップ

JP1/AJS2のバックアップ

- ・ファイルのバックアップ
- ・ジョブ実行環境定義のバックアップ
- ・ユニット定義のバックアップ
- ・JP1/AJS2 Consoleの設定情報のバックアップ
- ・登録予定情報のバックアップ

その他の情報のバックアップ

- ・システム環境の設定のバックアップ
- ・トラブルシュート資料採取コマンドのバックアップ
- ・クラスタ対応ツールのバックアップ

● JP1/AJS2の移行手順概要

・リストアの概要

JP1のインストール・セットアップ

JP1/Baseのリストア
・定義ファイルのリストア
・JP1共通定義情報のリストア

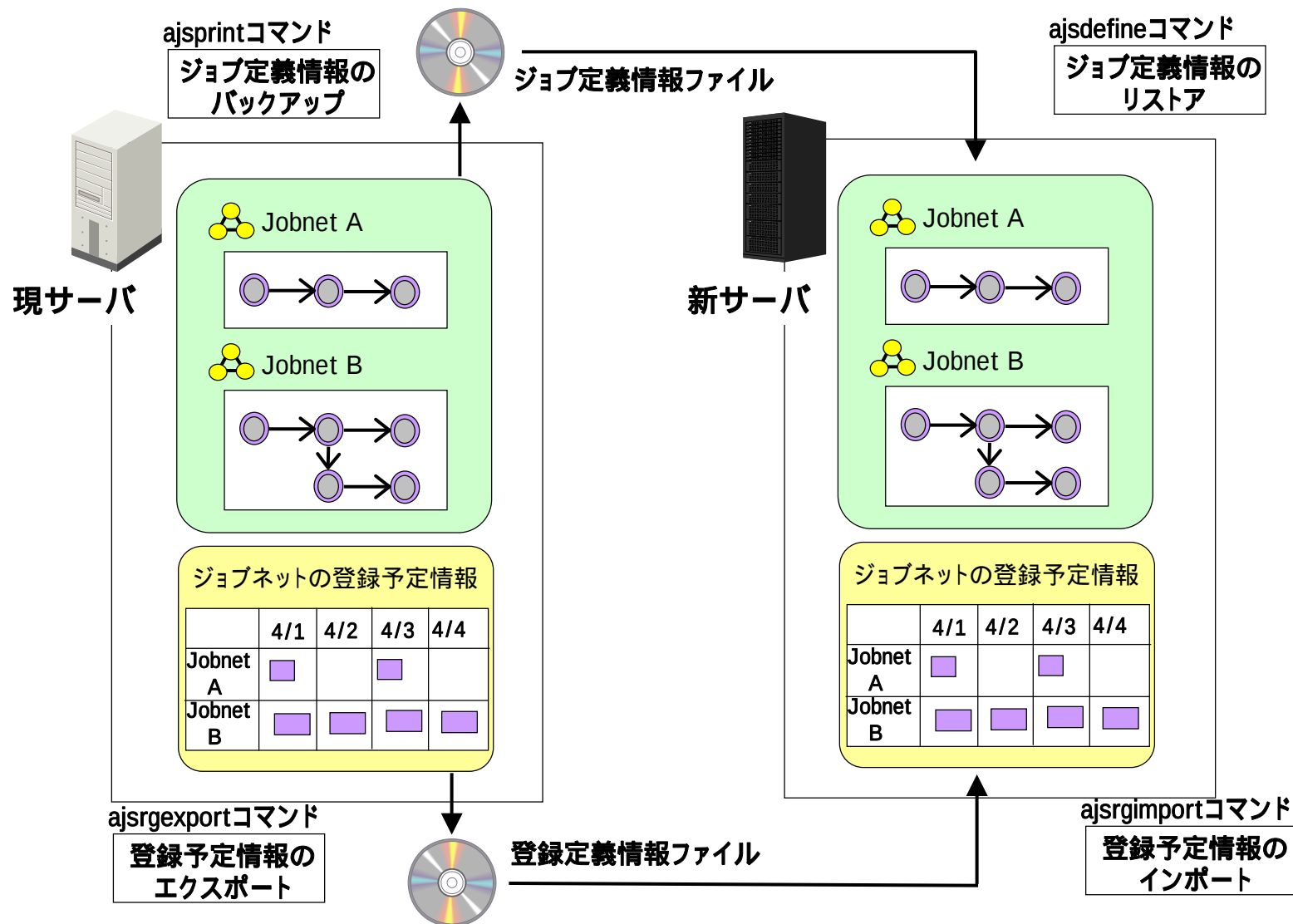
JP1/AJS2のリストア
・ファイルのリストア
・共通メモリー情報のクリアー
・スケジューラサービス用データベースの作成
・ジョブ実行環境定義のリストア
・ユニット定義のリストア
・JP1/AJS2 Consoleの設定情報のリストア
・登録予定情報のリストア

その他の情報のリストア

・システム環境の設定
・トラブルシュート資料採取コマンドのリストア
・クラスタ対応ツールのリストア
・連携機能の設定

2-1 .サーバリプレイスでのJP1/AJS2の移行方法

● ジョブ定義と登録予定情報のバックアップ/リストアの流れ

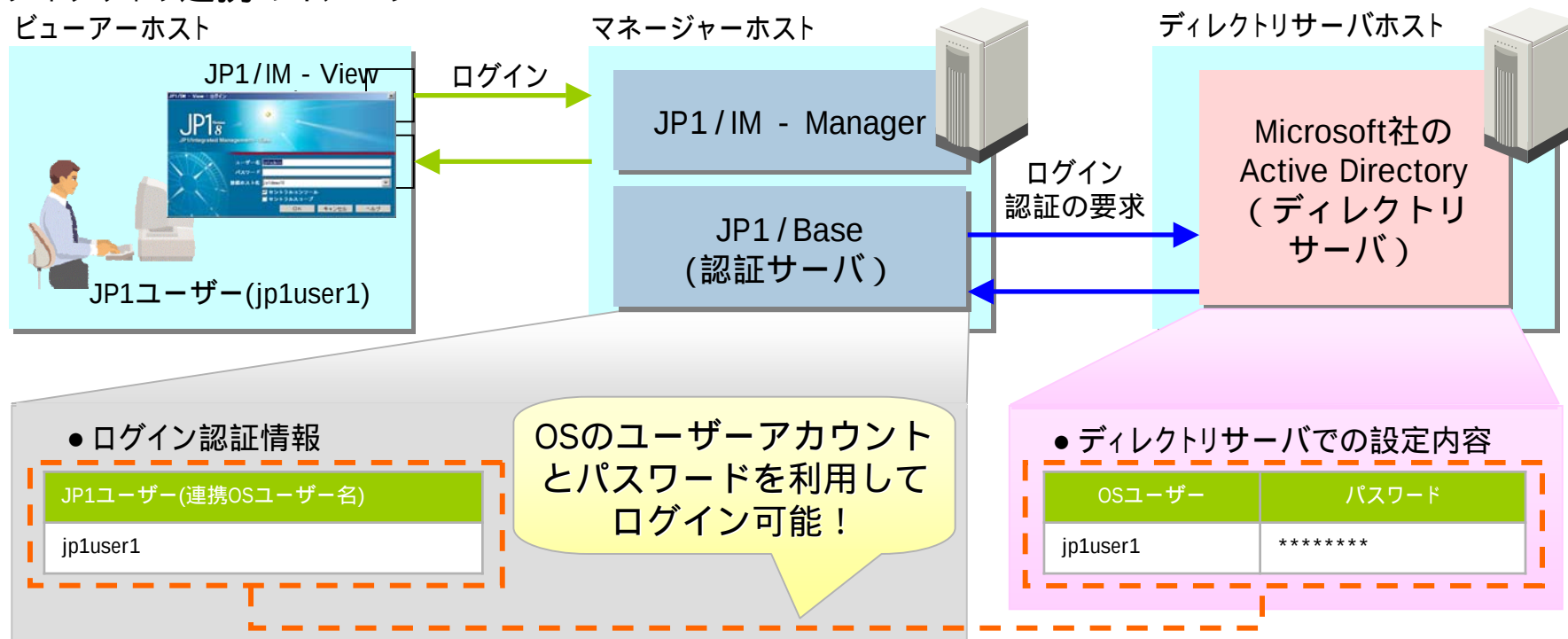


2-2 . パスワード管理をWindowsと一元化したい

セキュリティ強化の観点から各種ユーザーIDのパスワードを定期的に変更するのは今や常識です。しかし、個別に変更するのは時間もかかり、運用コストが増大します。そこで、Windowsのディレクトリサーバと連携して一元管理しましょう。^{*1}

対象製品: JP1/Base

ディレクトリ連携のイメージ

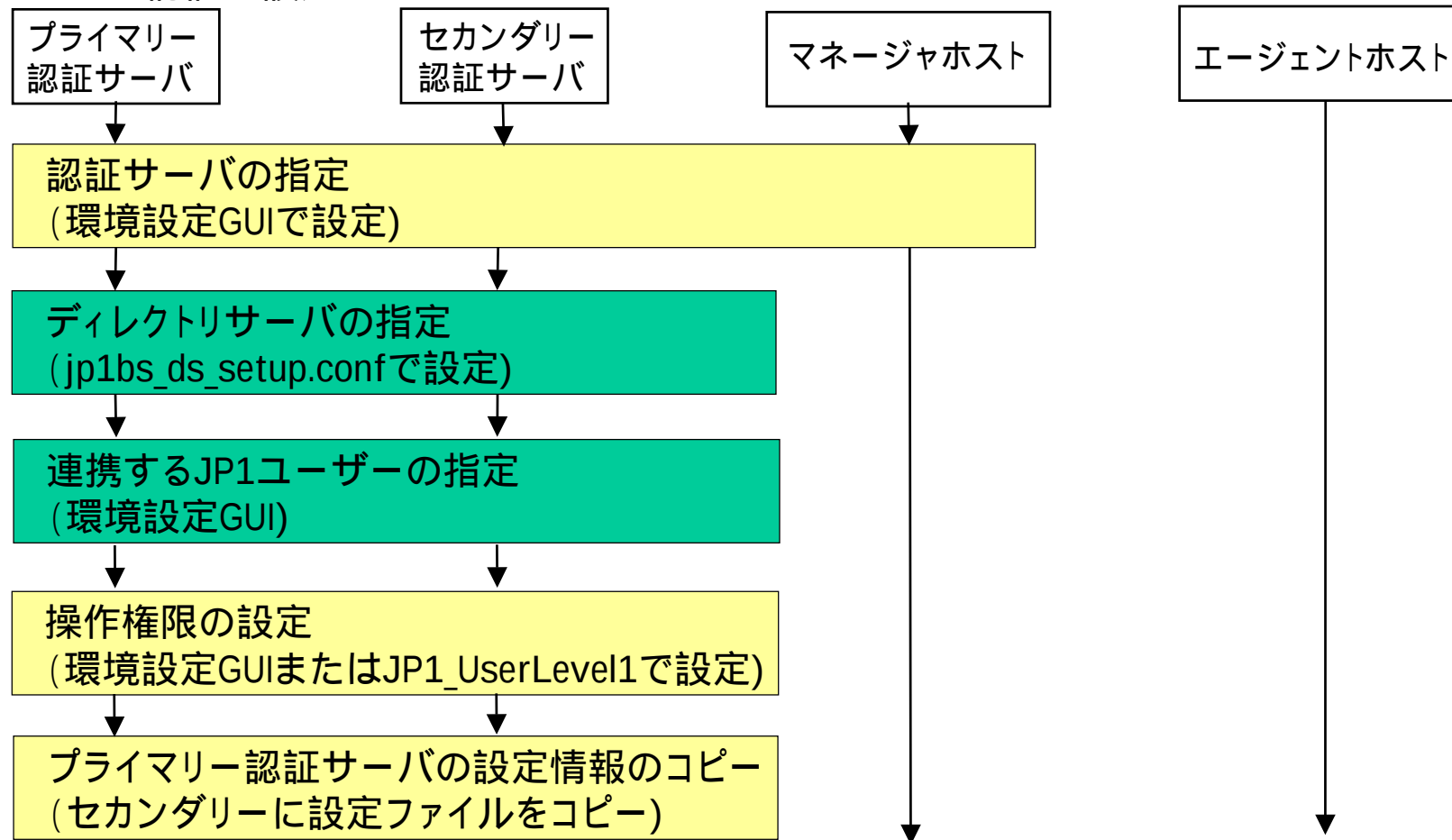


^{*1}: JP1/Base Windows版のみの機能で08-11以降でサポートしています

2-2 . パスワード管理をWindowsと一元化したい

● ディレクトリサーバ連携でのユーザー管理機能設定の流れ

ユーザー認証の設定

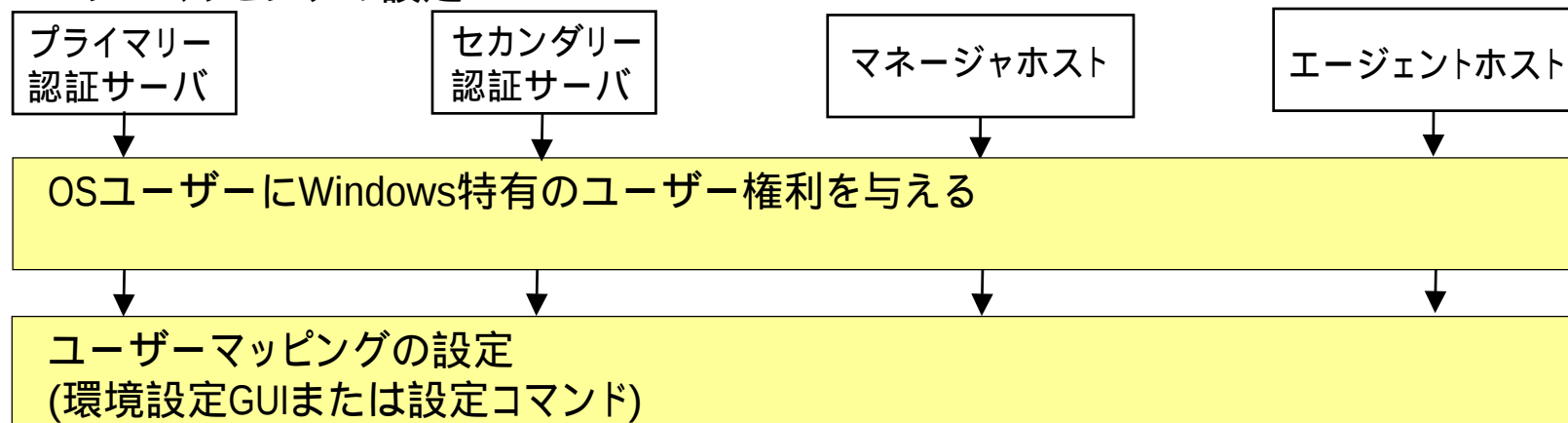


- 黄色 : ディレクトリサーバと連携しない場合と共通の設定内容
- 緑色 : ディレクトリサーバと連携する場合だけに必要な設定内容

2-2 . パスワード管理をWindowsと一元化したい

● ディレクトリサーバ連携でのユーザー管理機能設定の流れ

ユーザーマッピングの設定



- : ディレクトリサーバと連携しない場合と共通の設定内容
- : ディレクトリサーバと連携する場合だけに必要な設定内容

● ディレクトリサーバの指定の詳細 設定手順

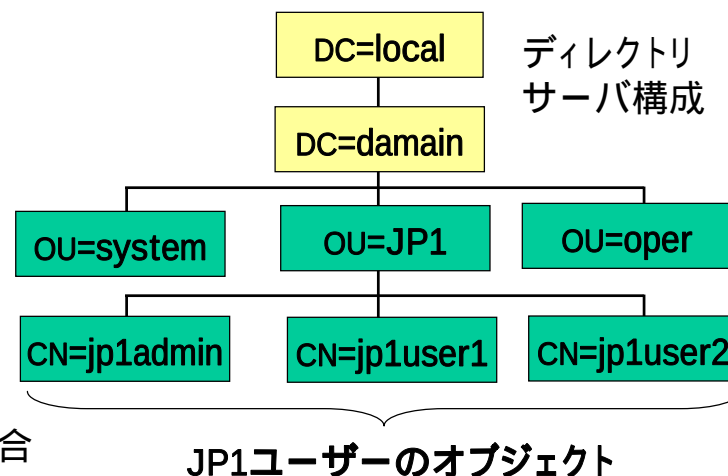
- (1) ディレクトリサーバ連携定義ファイル(jp1bs_ds_setup.conf)を編集する
- (2) jbssetcnfコマンドを実行して、定義を反映する
- (3) jbschkdsコマンドを実行してディレクトリサーバとの接続確認を行う

ディレクトリサーバ連携定義ファイルの設定例

jp1bs_ds_setup.conf

```
[JP1_DEFAULT¥JP1BASE¥DIRSRV]
“ENABLE”=dword:00000001
“SERVER”=“host-A . domain . local”
“PORT”=dword:0000027C
“BASE_DN”=“OU=JP1 , DC=domain , DC=local”
“ATTR_NAME”=“CN”
“SSL”=dword:00000001
```

アクティブディレクトリと物理ホストとの連携でSSLで接続する場合



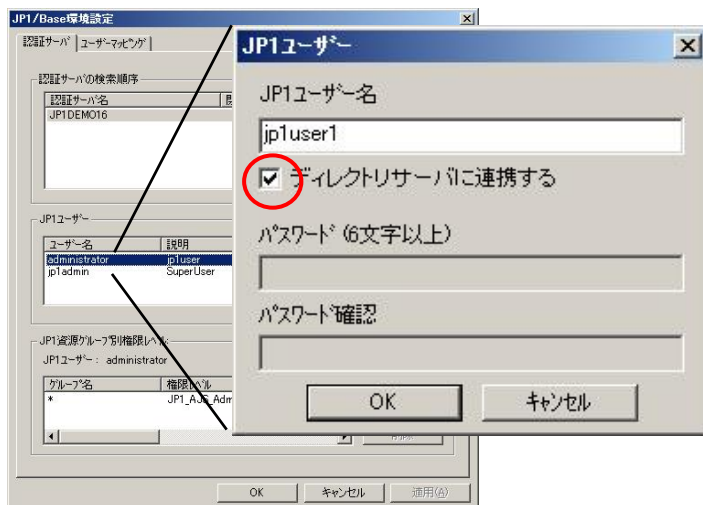
jbschkdsコマンドで確認できる内容

- ・ディレクトリサーバ連携機能が有効かどうか
- ・連携するディレクトリサーバ名
- ・ディレクトリサーバの接続先ポート番号
- ・SSLを使用するかどうか

2-2 . パスワード管理をWindowsと一元化したい

- 連携するJP1ユーザーの指定の詳細
設定方法

- (1)GUIを使ってJP1ユーザーを設定する方法



- (2)コマンドを使ってJP1ユーザーを設定する方法

【コマンド形式】

Jbsadduser -ds jp1ユーザー名

入力例

jbsadduser - ds jp1user1

注意事項

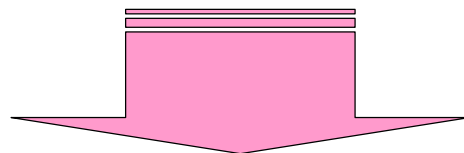
アクティブディレクトリと連携するとパスワードの設定はアクティブディレクトリ側で行うことになります。ただし、JP1では下記の制限があるので設定時には注意してください。

- ・バイト数: 6 ~ 32バイト
- ・使用禁止文字: ¥ “ : およびスペース, タブ

3

運用フェーズでの活用ノウハウ

セキュリティ面や管理面で業務や部署でジョブネットやスケジューラサービス、更にはマネージャサーバを分けているケースはよくあります。しかし、業務実行面では他の業務や部署と密接に関連するのが通常です。では、他の業務や部署のジョブの終了を契機にジョブを実行するような場合、どうしますか。相手から終了の連絡を受けて手動でジョブネットを実行しますか？



ジョブネットの実行順序制御機能^{*1}を活用しましょう！

同スケジューラサービス内だけではなく、異なったスケジューラサービス間や別のJP1/AJS2マネージャとの連携もできます。^{*2}

対象製品：JP1/AJS2 - Manager

*1：JP1/AJS2 - Manager 08-10以降でサポートしています

*2：JP1/AJS2 - Manager 08-50以降でサポートしています

3-1 . ジョブネットの実行順序制御を活用しよう

ジョブネットの実行順序制御は今までの定義情報を大きく変更する必要はありません。他のルートジョブネットの実行結果により処理を行うルートジョブネットに新たにジョブネットコネクタを追加し、相手側のルートジョブネットにジョブネットコネクタ名を追加するだけで簡単に実現できます。

・ジョブネットコネクタ定義画面

詳細定義 - [ジョブネットコネクタ]

ユニット名: 在庫引当

コメント:

実行ホスト:

定義 属性

接続範囲: ☒ 同一サービス ☐ 別サービス

接続ホスト名:

接続サービス名:

接続先のジョブネット名:

OK キャンセル ヘルプ

他のスケジュールサービスや他のマネージャに接続する場合は『別サービス』をチェックします

・ジョブネット定義画面

詳細定義 - [ジョブネット]

ユニット名: 受注処理

コメント: test

実行ホスト:

定義 属性

多重起動: ☒ 不可能 ☐ 可能

保存世代数: 1

優先順位: なし

打ち切り時間: システム設定に従う

スケジューリング方式: ☒ スケジュールスキップ ☐ 多重スケジュール

ジョブネット監視: ☐ 実行監視

実行順序制御: ☒ する ☐ しない

接続範囲: ☒ 同一サービス ☐ 別サービス

接続ホスト名:

接続サービス名:

ジョブネットコネクタ名:

実行順序制御方式: ☒ 同期 ☐ 非同期

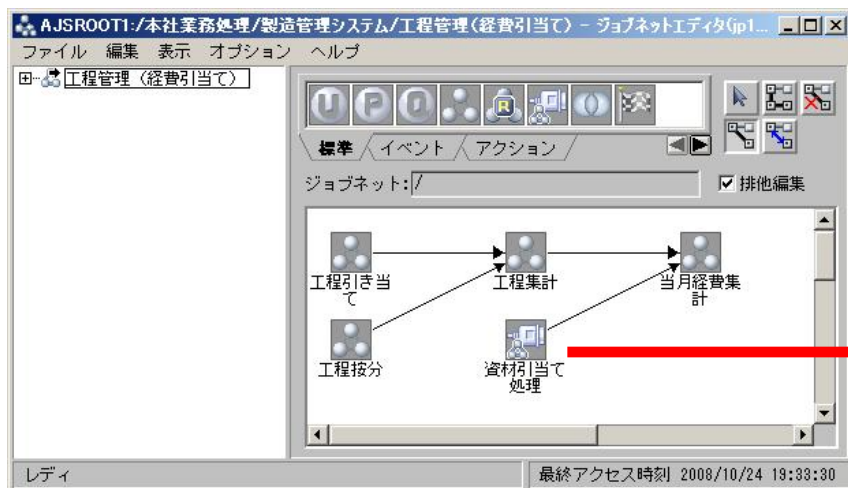
OK キャンセル ヘルプ

ジョブネット
コネクタ関連定義

3-1. ジョブネットの実行順序制御を活用しよう

設定例

接続元ジョブネット



ジョブネットコネクタの定義

詳細定義 - [ジョブネットコネクタ]

ユニット名	資材引当て処理
コメント	
実行ホスト	

定義 属性

接続範囲 ☒ 同一サービス ☐ 別サービス

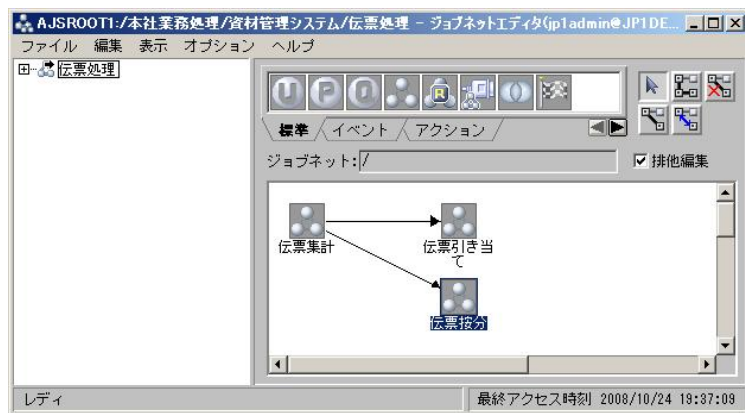
接続ホスト名

接続サービス名

接続先のジョブネット名 /本社業務処理/資材管理システム/伝票処理 (直財費)

OK キャンセル ヘルプ

接続先ジョブネット



ジョブネットコネクタの定義

詳細定義 - [ジョブネット]

ユニット名	伝票処理 (直財費)
コメント	
実行ホスト	

定義 属性

多重起動 ☒ 不可能 ☐ 可能

保存世代数 1

優先順位 なし

打ち切り時間 システム設定に従う

スケジューリング方式 ☒ スケジュールスキップ ☐ 多重スケジュール

ジョブネット監視 ☐ 実行所要時間 分

実行順序制御 ☒ する ☐ しない

接続範囲 ☒ 同一サービス ☐ 別サービス

接続ホスト名

接続サービス名

ジョブネットコネクタ名 /本社業務処理/製造管理システム/工程管理(経費引)

実行順序制御方式 ☒ 同期 ☐ 非同期

OK キャンセル ヘルプ

イベントジョブは従来のスケジュールで動くジョブと異なり、イベントの発生を契機に任意のタイミングでジョブを実行させることができます。また、イベントジョブにはイベント情報を後続のジョブに引き継ぐ機能があります。この機能を使えば、オンラインのようなリクエスト受付型のジョブが簡単に作れます。

● イベントジョブの引継ぎ情報

イベントジョブの種類によって一定の情報をマクロ変数として後続のジョブのパラメータに設定できます。

- ・JP1イベント受信監視 …… イベントID, メッセージ情報, イベント発行年月日 etc.
 - ・ファイル監視 …… ファイル名, ファイルの状態(作成, 削除等), 更新時刻 etc.
 - ・メール受信監視 …… 差出人, 件名, メール本文^{*1}, 到着日 etc.
- など

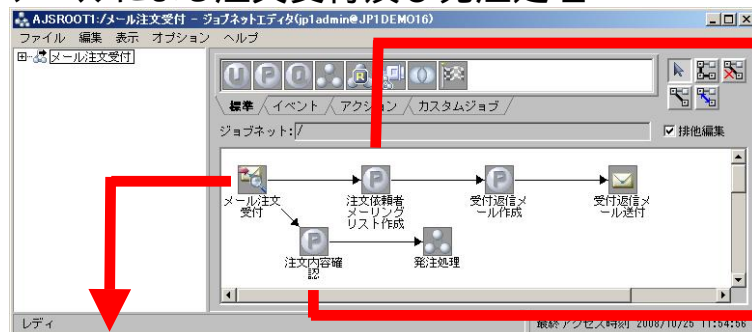
対象製品: JP1/AJS2 - Manager, JP1/AJS2 - Agent

***1: Windows版のみで連携する情報は
メール本文を格納したファイル名です**

3-2 . イベントジョブの情報を後続ジョブに利用する

設定例

メールによる注文受付及び発注処理



引継ぎ情報の受取り設定

詳細定義-[PC Job]

ユニット名	注文依頼者メールリンクリスト作成
コメント	
実行ホスト	

定義 転送ファイル 属性

実行ファイル名	C:\mailorder\list.exe
パラメーター	?MAILADDR?
環境変数	

受信メールからの引継ぎ情報設定定義

詳細定義-[メール受信監視]

ユニット名	メール注文受付
コメント	

詳細定義-[メール受信監視]-[引継ぎ情報]

引き継ぎ情報	?AJS2 ?:
	?AJS2MAILADDR?:MLRCVADDRESS
	?AJS2MAILBODY?:MLRCVBODY

引き継ぎ情報

プロファイル名

プロファイル名 mail

OK キャンセル ヘルプ

詳細定義-[PC Job]

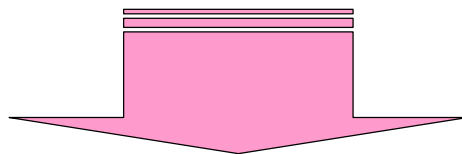
ユニット名	注文内容確認
コメント	
実行ホスト	

定義 転送ファイル 属性

実行ファイル名	C:\mailorder\chumon.exe
パラメーター	?MAILBODY?
環境変数	
環境変数ファイル名	
ワークバフ	
実行優先順位	なし
標準入力ファイル名	
標準出力ファイル名	
標準エラー出力ファイル名	
終了判定	判定結果 しきい値による判定
	警告しきい値 異常しきい値 0
実行時のユーザー	

OK キャンセル ヘルプ

業務の中の一連の流れで途中にスケジュールサイクルの異なる業務が入るという経験はありませんか？その時、ジョブをどのように作成していますか？ジョブネットを別にするとジョブネットの連携や管理が大変です。ジョブネットの中にスケジュールサイクルの異なるジョブを混在させることができれば問題は解決です。



ネストジョブネットを利用しましょう！

ネストジョブネットは上位のジョブネットとのスケジュールルールの依存関係の有無を設定することができます。

対象製品：JP1/AJS2 - Manager , JP1/AJS2 - Agent

3-3 . サイクルの異なるジョブを連携させるには

設定概要

スケジュールの設定

ジョブネット名: 週末実行

☐ 上位のジョブネットに依存する 上位をコピー

#	リンク	種別	年月	日
1	1	絶対日	2007/01	1日

スケジュールルール一覧

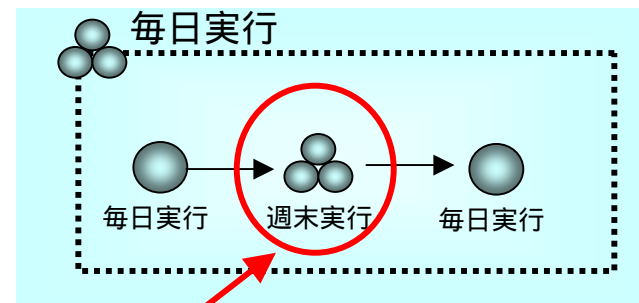
追加... 変更... コピー... 削除

有効範囲 ☐ 期日指定 年 月 日

オプション ☐ 他のジョブグループのカレンダーを参照
ジョブグループ名
☐ 排他スケジュール
排他ジョブネット名

OK キャンセル ヘルプ

処理イメージ



- ・スケジュールサイクルの異なるジョブをネストジョブネットで定義します。
- ・定義したジョブネットのスケジュールルールの設定で「上位のジョブネットに依存する」を外します。
- ・スケジュールルールでスケジュールを設定します。(本例では週末実行をスケジュール)

補足: サイクルの異なるジョブを連携させることはジョブネットコネクタを用いても実現できます

4

監視フェーズでの活用ノウハウ

システムのメンテナンス時などは普段の監視対象となるイベントが大量に出力されることがよくあります。しかし、通常通りの監視をしていると重要なイベントを見逃したり、確認処理で不要な手順が発生します。メンテナンスの間だけ一時的にイベント監視を抑止すれば、不要な工数を省けます。

JP1/IMでイベントの除外条件^{*1}を設定しましょう。

イベント取得フィルターで除外条件を設定します

- ・複数のフィルターを設定できるので、用途に応じて切替え運用ができます。
- ・さらにフィルターの適用有無の条件(共通除外条件)も設定できるので特定のサーバだけに適用させることもできます。
- ・共通除外条件の有効/無効はコマンドでも切替えることができます。
JP1/AJS2やJP1/IM - PLと連携させると自動運用もできます。

対象製品: JP1/IM - Manager

^{*1}: JP1/IM - Manager 08-50以降でサポートしています

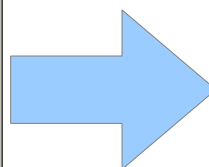
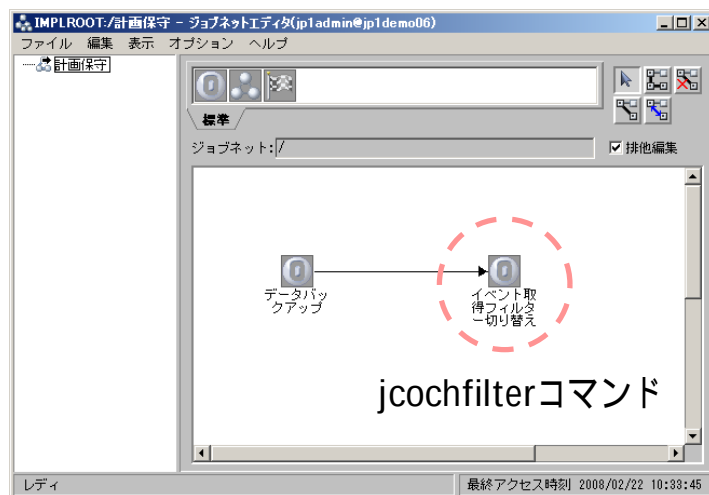
4-1 .メンテナンス時はイベント監視を抑制したい

適用例

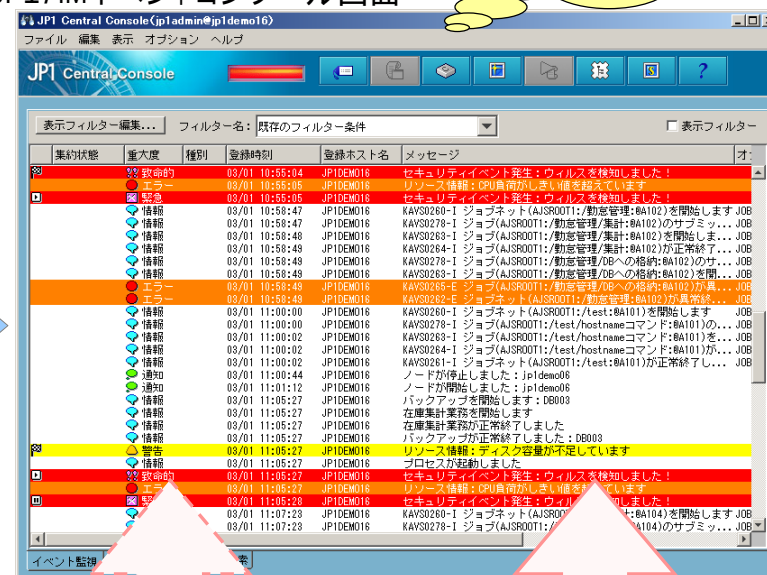
- 計画保守時に自動的に保守対象のサーバのイベント取得を抑制する

視認性が向上

JP1/IMイベントコンソール画面

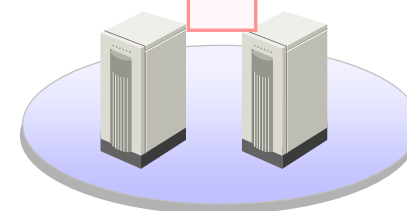


切り替え



取得しない

取得する



共通除外条件の有効/無効を切替える
コマンドをジョブとしてスケジュール

イベント監視で重要な要素に発生したイベントに対して、迅速な対処が求められることがあります。イベントを契機に自動的に対処手順が実行されることが理想ですが、あらゆるイベントに対し実現するのは簡単なことではありません。しかし、「どのような事象がおきているか」、「どの手順書を見るのか」、「誰に連絡すればよいのか」など、わずかな情報でも分かれば運用担当者の負荷は軽減されます。

イベントガイド機能を設定しましょう！

- ・JP1イベントとイベントガイド情報の対応付けは、イベントガイド情報ファイル(jco_guide.txt)で定義します。
- ・テキスト形式、HTML形式で表示できます。
- ・メッセージ情報は「イベントガイド情報ファイル」または「イベントメッセージファイル」のいずれかの形式で蓄積されます。「イベントメッセージファイル」の形式はJP1/IM - Managerが動作中でも修正・反映が可能です。

対象製品：JP1/IM - Manager

4-2 . イベントの対処手順を簡単に参照する

- イベントガイド情報ファイル(jco_guide.txt)の定義形式

```
DESC_VERSION=ファイルバージョン  
  
[EV GUIDE イベントガイド番号]  
EV_COMP=属性名:属性値  
EV_GUIDE=イベントガイドメッセージ  
=イベントガイド情報の表示内容  
[END]  
[EV GUIDE イベントガイド番号]  
EV_COMP=属性名:属性値  
EV_COMP=属性名:属性値  
EV_FILE=イベントガイドメッセージファイル名  
[END]
```

- イベントガイド情報ファイル(jco_guide.txt)の定義例

```
DESC_VERSION=1  
  
#JP1/AJS2 ジョブ保留イベント  
[EV GUIDE 1]  
EV_COMP=B.IDBASE:00004121  
EV_COMP=E.OBJECT NAME:AJSROOT1:/在庫管理業務/受注DB更新/DB更新  
EV_GUIDE=詳細情報¥nジョブが保留されています。¥n[モニター起動]ボタンをクリックし、該当ジョブの実行状況の確認後、ジョブの  
保留を解除してください。  
[END] [モニター起動]ボタンをクリックし、該当ジョブの実行状況の確認後、ジョブの保留を解除してください。ジョブの実行状況を確認し保留解除してください。 DESC_VERSION=1  
#JP1/AJS2 ジョブ保留イベント  
[EV GUIDE 1]  
EV_COMP=B.IDBASE:00004121  
EV_COMP=E.OBJECT NAME:AJSROOT1:/cm2-k grp1/test2/JOB1  
EV_GUIDE= 詳細情報¥n ジョブが保留しました¥n¥nのジョブ実行状況を確認し保留解除してください。  
[END]
```

4-2 . イベントの対処手順を簡単に参照する

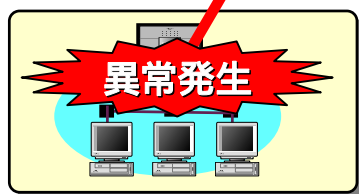
イベントガイド機能の表示例

The screenshot shows the JP1 Central Console interface. The main window displays a list of events with columns for status, severity, type, registration time, host name, and message. A red box highlights an error event (KAYS0265-E) with the message 'ジョブ(AJSROOT1:/動意管理/集計:0A110)が正常終了しました'. A blue arrow points from this event to a detailed view window titled 'イベント詳細-イベントコンソール'.

The detailed view window shows the following information:

- イベント属性:** A table with attributes like イベントDB内通し番号, イベントID, 発行元プロセスID, etc.
- メッセージ:** A text area showing the event message: 'KAYS0265-E ジョブ(AJSROOT1:/月次処理/月次/月次計算)が異常終了しました(status: f, code: -1, host: Server10)'.
- ガイド:** A section with a red box containing the text: '[モニター起動]し、異常終了したジョブの原因を調べ、以下に連絡する。' followed by '運用責任者: 運用A' and 'ジョブネット管理部署: 開発A'.

Buttons at the bottom of the detailed view include 'モニター起動', 'アクション結果', '閉じる', and 'ヘルプ'.



[モニター起動]し、異常終了したジョブの原因を調べ、以下に連絡する。

運用責任者: 運用A
ジョブネット管理部署: 開発A

4-3 . ジョブの先行/後続の関連をすばやく確認する

ジョブネットを作成していると、業務の関係からジョブが膨大な数になることがよくあります。そして、ネストジョブネットなどを使って整理してもジョブやジョブネットの先行/後続関係が複雑になって分かりにくくなってしまいます。このような時、ジョブ(ジョブネット)の先行/後続の関連がすばやく、簡単にできれば作成時の確認も異常終了時の影響調査も安心です。

JP1/AJS2 - Viewの

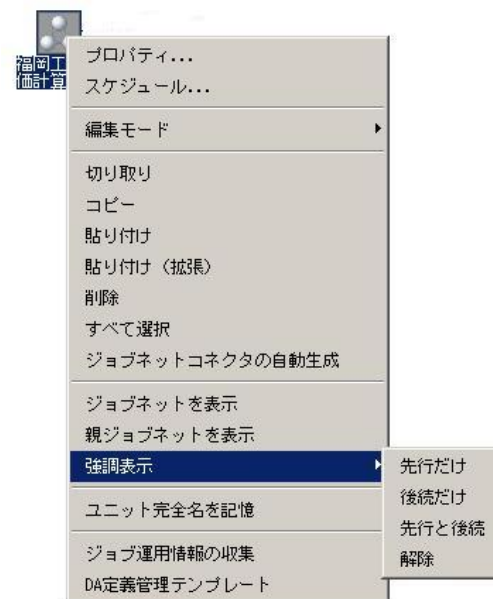
^{*1} ジョブ(ジョブネット)強調表示機能を使いましょう！

対象製品: JP1/AJS2 - View

該当するジョブ(ジョブネット)で右クリックして『強調表示』を選択すれば先行/後続のジョブ(ジョブネット)の色が変わります。強調表示は『先行だけ』, 『後続だけ』, 『先行と後続』が選択できます。

これにより、下記の効果があります。

- ・異常終了時の後続ジョブへの影響確認が容易
- ・再実行操作などで関連するジョブの確認が容易
- ・ユニット関連線の定義誤りの確認が容易

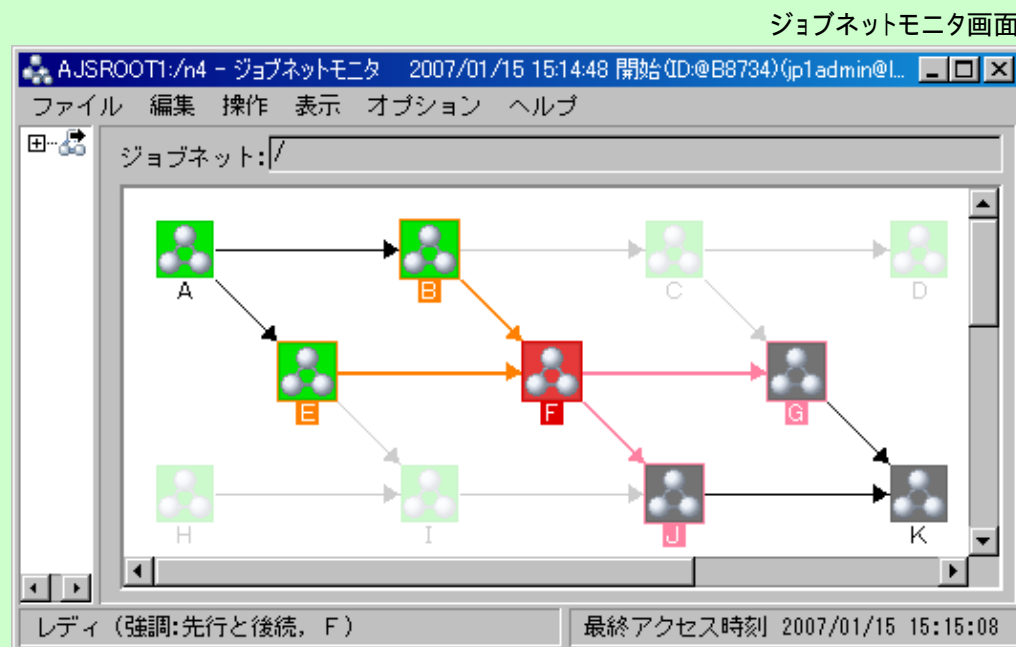


*1: JP1/AJS2 - View 08-10以降でサポートしています

4-3 . ジョブの先行/後続の関連をすばやく確認する

強調表示機能の使用例

- 異常終了したジョブFを基準として
直接の先行を橙色、
直接の後続を桃色
で表示。
- 基準のジョブと先行/後続関係を持
たないジョブは、淡く表示します。
- 『ジョブネットエディタ』ウィンドウま
たは『ジョブネットモニタ』ウィンドウ
で指定が可能です。
- 強調表示の色を変更することもでき
ます。



5

評価フェーズでの活用ノウハウ

JP1/AJS2 - Viewは接続先を指定することにより複数のJP1/AJS2 - Managerと接続することができます。JP1/AJS2 - Viewの接続状況が把握できれば、Viewの割り当てが最適化できます。また、内部統制の観点からもJP1/AJS2 - Viewを「いつ」、「誰が」使用していたかが分かります。JP1/AJS2 - Viewの接続状況のログを取得しましょう。

JP1/AJS2 - Viewの接続状況のログは

JP1/AJS2 - Monitorサービスの開始・終了ログを
スケジューラーログに出力設定することにより取得できます。

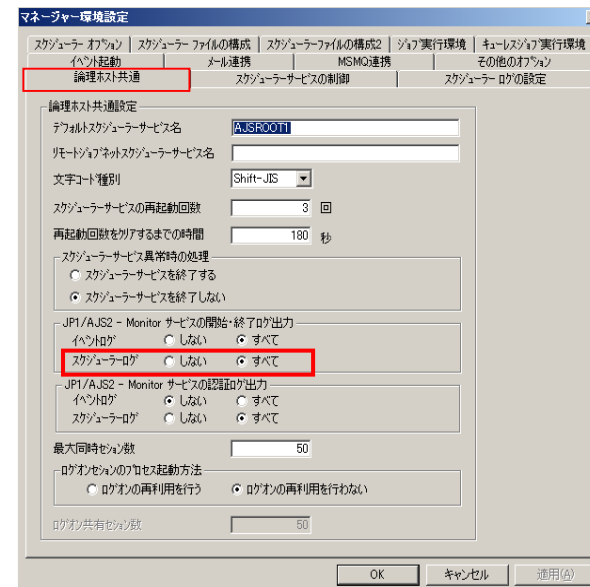
対象製品: JP1/AJS2 - Manager , JP1/AJS2 - View

設定手順

JP1/AJS2 - Managerの環境設定画面/ファイルで設定します

【Windows版の場合】

- ・JP1/AJS2の環境設定ウィンドウより「論理ホスト共通」タグを選択します。
- ・「JP1/AJS2 - Monitorサービスの開始・終了ログ出力」項目の「スケジューラーログ」の設定で「すべて」にチェックをします。
- ・設定後、環境設定ウィンドウを閉じます。
- ・JP1/AJS2サービスを再起動します。

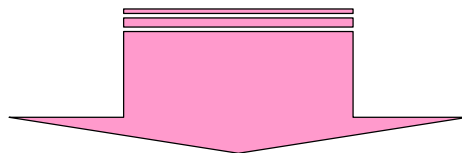


設定画面

【UNIX版の場合】

- ・次のファイルをエディターで開きます。
/etc/opt/jp1ajs2/conf/Schedule.conf
- ・構成定義パラメータを次のように設定します。
“MONLOG”=all
- ・コマンド(jbssetcnf)を実行します。
/opt/jp1base/bin/jbssetcnf /etc/opt/jp1ajs2/conf/Schedule.conf

運用報告書などにJP1イベントを記入したり、エラーイベントの統計を作成したりしていませんか？また、障害イベントが発生した時にイベントの内容を伝えるのにイベントの転記に困ったことはありませんか？
そんな時にデータ出力できたり、カット＆ペーストできたりすれば便利と思ったことはありませんか？



JP1/IM - Managerには

JP1イベントのCSV出力機能^{*1}とコピー機能^{*2}があります！

これらの機能を使って報告書作成や
障害報告を簡単に効率的に行いましょう

対象製品:JP1/IM - Manager

*1:JP1/IM - Manager 08-00以降でサポートしています

*2:JP1/IM - Manager 08-10以降でサポートしています

5-2 .JP1イベントを報告書のデータとして活用する

● CSV出力機能の使用例

JP1 Central Console(jp1admin@jp1demo16)

表示イベントを保存

イベントリスト:

集約状態	重大度	種別	登録時刻	登録ホスト名	メッセージ
	情報		03/07 09:00:32	JP1DEMO16	KAVS0201-I スケジューラーサービスを終了
	情報		03/07 09:00:33	JP1DEMO16	KAVT0901-I JP1/AJS2 イベントアクション
	情報		03/07 09:00:34	JP1DEMO16	KAVT0498-I JP1/AJS2 イベントアクション
	情報		03/07 09:00:44	JP1DEMO16	KAVT0498-I JP1/AJS2 イベントアクション
	情報		03/07 09:00:45	JP1DEMO16	KAVT0900-I JP1/AJS2 イベントアクション
	情報		03/07 09:00:46	JP1DEMO16	KAVS0200-I スケジューラーサービスを開始
10	エラー		03/07 09:01:14	JP1DEMO16	KAVS0265-E ジョブ(AJSROOT1:/受注処理/P
2	エラー		03/07 09:01:15	JP1DEMO16	すべてのホストが起動しました。ホスト名
	情報		03/07 09:12:00	JP1DEMO16	ホストAが起動しました。
	情報		03/07 09:12:00	JP1DEMO16	ホストBが起動しました。
	情報		03/07 09:12:00	JP1DEMO16	ホストCが起動しました。
	通知		03/07 09:12:01	JP1DEMO16	すべてのホストが起動しました。ホスト名
	情報		03/07 09:12:15	JP1DEMO16	バックアップを開始します: DB003
	情報		03/07 09:12:15	JP1DEMO16	在庫集計業務を開始します
	情報		03/07 09:12:15	JP1DEMO16	在庫集計業務が正常終了しました
	情報		03/07 09:12:15	JP1DEMO16	バックアップが正常終了しました: DB003
	警告		03/07 09:12:15	JP1DEMO16	リソース情報: ディスク容量が不足しています
	情報		03/07 09:12:15	JP1DEMO16	プロセスが起動しました
	致命的		03/07 09:12:15	JP1DEMO16	セキュリティイベント発生: ウィルスを検知しました!
	エラー		03/07 09:12:15	JP1DEMO16	リソース情報: CPU負荷がしきい値を超えています
1+	緊急		03/07 09:12:15	JP1DEMO16	セキュリティイベント発生: ウィルスを検知しました!

表示イベントを保存

参照: temp

ファイル名: IM-20060307.csv

ファイルタイプ: CSV(*.csv)

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	2006/3/7 18:47	jp1admin	sys1_g-cm2ap3	重要イベント				
2	対処状況	集約状態	重大度	登録時刻	登録ホスト名	ユーザー名	イベントID	メッセージ
3	未対処		エラー	2006/3/7 16:31	sys1_g-cm2ap3		111	
4	未対処		エラー	2006/3/7 16:32	sys1_g-cm2ap3		222	
5	未対処		エラー	2006/3/7 18:13	sys1_g-cm2ap3		00003A71	UPS サービスが正しく構成されていません。
6	未対処		エラー	2006/3/7 18:13	sys1_g-cm2ap3		00003A71	Uninterruptible Power Supply は次のエラーで
7	未対処		緊急	2006/3/7 18:13	sys1_g-cm2ap3		00000A03	了しました: %X2481

5-2 .JP1イベントを報告書のデータとして活用する

●コピー機能の使用例

The screenshot shows the JP1 Central Console interface. The 'JP1c' menu is open, highlighting the 'コピー' (Copy) option. A table of event logs is visible, with several rows highlighted in red. A blue arrow points from the 'コピー' menu to a 'ペースト' (Paste) window. The 'ペースト' window shows the copied text, which includes event details and action results.

コピー
(Ctrl + Cキーまたは
[編集]メニューの[コピー])

ペースト
(Ctrl + Vキーなど)

下記の画面のJP1イベント情報、アクション結果、
コマンド実行結果もコピー & ペーストできます。

- [イベント詳細] 画面
- [関連イベント一覧] 画面
- [アクション結果] 画面
- [アクション結果詳細] 画面
- [アクション結果一覧] 画面
- [コマンド実行] 画面

JP1 Central Console (jp1admin@seisyo-2)

表示フィルター編集... フィルター名: 既存のフィルター条件

重大度	登録時刻	登録ホスト名	イベントID	メッセージ
エラー	01/25 10:48:28	seisyo-2	00000125	Virus Detected!!!
情報	01/25 10:48:28	seisyo-2	00000123	ジョブ (MVSジョブ) が...
情報	01/25 10:48:28	seisyo-2	00000123	ジョブ (ファイル転送)
警告	01/25 10:48:29	seisyo-2	00000125	CPU負荷がしきい値を超...
警告	01/25 10:48:29	seisyo-2	00000125	不審行為検出。セキュリ...
警告	01/25 10:48:29	seisyo-2	00000123	CPU負荷がしきい値を超...
警告	01/25 10:48:30	seisyo-2	00000123	ジョブ (R/8ジョブ) が...
警告	01/25 10:48:30	seisyo-2	00000123	ジョブ (R/8ジョブ) が...
警告	01/25 10:48:31	seisyo-2	00000124	ディスク容量が不足して...
エラー	01/25 10:48:31	seisyo-2	00000123	ジョブ (UNIX本店ジョブ2) が異常終了しました。
情報	01/25 10:48:31	seisyo-2	00000123	業務 (商品先) 実行が3607/3607件で完了しました。
情報	01/25 10:48:32	seisyo-2	00000123	バックアップ (本店売上データ) が正常終了しました。
警告	01/25 10:48:32	seisyo-2	00000123	筐体内の温度が警告値を超えています。

障害調査依頼

宛先: 障害調査依頼

件名: 障害調査依頼

MS UI Gothic 10

to: システム管理者

以下のJP1イベントが発生しています。
至急、障害調査をお願いします。

対処状況, 重大度, 登録時刻, 登録ホスト名, ユーザー名, イベントID, メッセージ, オブジェクトタイプ, アクション
処理中エラー, 2007/01/25 10:48:28, seisyo-2, 00000125, Virus Detected!!!
処理中警告, 2007/01/25 10:48:31, seisyo-2, 00000124, ディスク容量が不足しています..
処理中エラー, 2007/01/25 10:48:31, seisyo-2, 00000123, ジョブ (UNIX本店ジョブ2) が異常終了しました..
以上。

今回ご紹介した活用ノウハウを使えば、さらに効率的で円滑な運用管理を実現できます。ぜひ、これらの活用をお願いします。

- ・JP1/AJS2 - Viewの接続状況を管理する
- ・JP1イベントを報告書のデータとして活用する

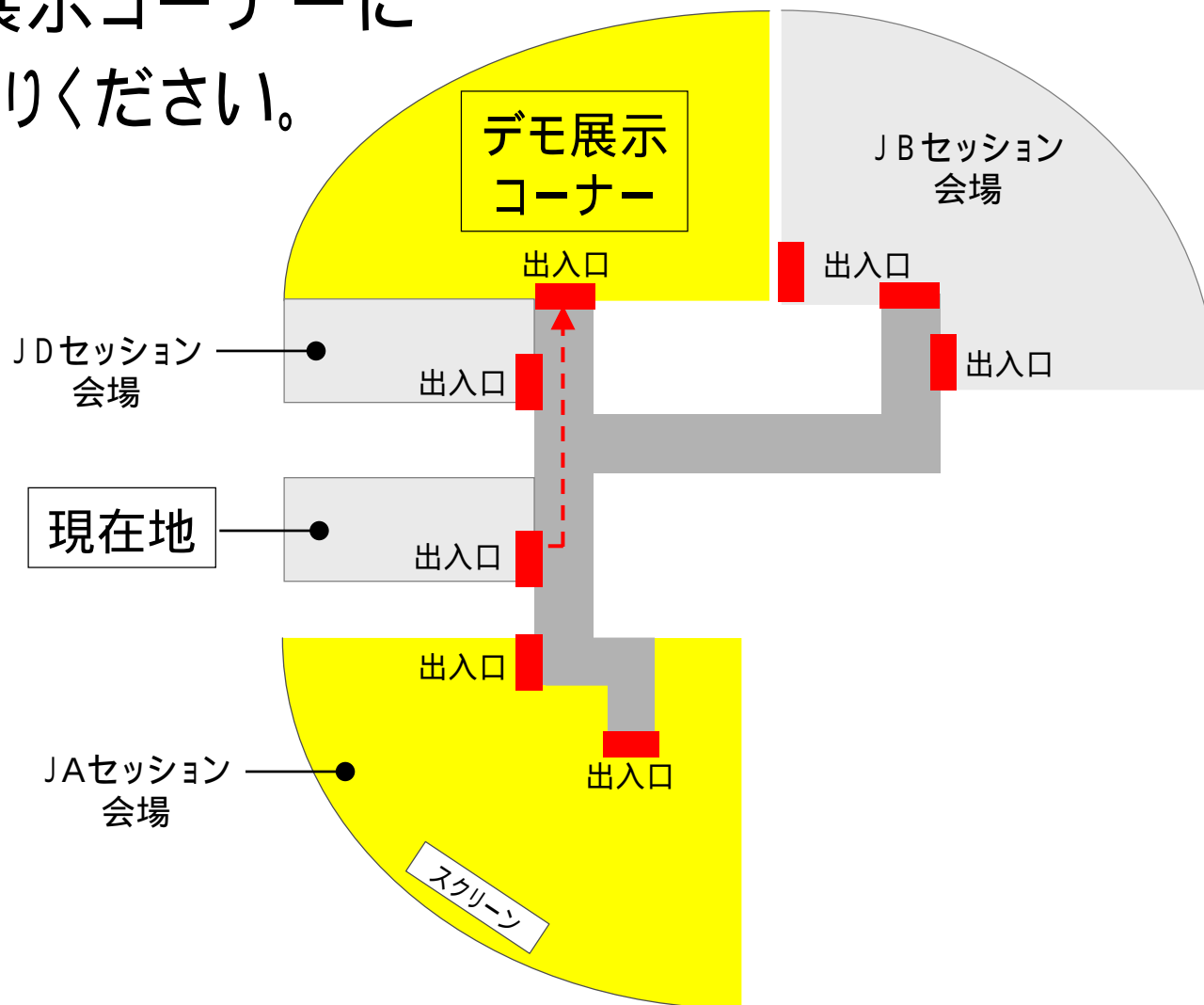
- ・サーバリプレースでのJP1/AJS2の移行
- ・パスワード管理をWindowsと一元化したい



- ・メンテナンス時はイベント監視を抑止したい
- ・イベントの対処手順を簡単に参照する
- ・ジョブの先行/後続の関連をすばやく確認する

- ・ジョブネットの実行順序制御を活用しよう
- ・イベントジョブの情報を後続ジョブに利用する
- ・サイクルの異なるジョブを連携させるには

ぜひ、デモ展示コーナーに
お立ち寄りください。



- Active Directoryは、米国およびその他の国における米国Microsoft Corp.の登録商標です。
- Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。
- Microsoftは、米国およびその他の国における米国Microsoft Corp.の登録商標です。
- UNIXは、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。
- Windowsは、米国およびその他の国における米国Microsoft Corp.の登録商標です。

その他記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

本資料に記載しております画面表示をはじめ、製品仕様は、改良のため変更することがあります。

本製品を利用したシステム構築をする場合は、ご利用の製品のマニュアルを必ず参照いただけるようお願いいたします。